

## 私が考える税のあり方

所沢市立東中学校

三年 永吉 ほのみ

税は、社会の基盤を支えている。それは、税の在り方の一つとして正しいといえる。公共サービスの財源や、医療、消防の運営など、私達の生活に欠かせない様々なサービスは、税金のサポートによって成り立っているからだ。しかし、人々に課せられる税は、負担だと不満を抱く人もいるという事実を知った。そこで私は、人々の「不満」を税への「納得」に変えていくためには、どのような事が必要、あるいは大切なのか考えてみることにした。

まず、人々が納税に対して不満を抱いている理由を考えてみた。現代の日本は、税の国民負担率が世界で二十二位と、先進国の中でも高い負担率があるというのが現状だ。それは、裏をかいてみれば国としての公共サービスのレベルが高いともいえる。しかし、税負担額が大きいわりに、顕著な使用例以外の税の使い道はあまり知られておらず、不透明だと思った。つまり、人々が不満を抱く理由の一つとして、税の使い道があまり広く知られていないという事があると思った。税の使い道について知る事は、私たち納税者が税を支払っていく上で、税の本当の価値を知る事、人々の不満を納得に変える事につながる。

税の知識がゼロに等しいレベルの私は、次に税がどんな事に使われているのか、具体的な例を調べてみた。まず、一概に税と

はいつでも、税には様々な種類がある事を知った。所得税や消費税などの身近なものから、住民税、法人税など知らない税もあった。税は思っていたよりも色々なところにあり、それぞれに異なる目的や対象がある事が分かった。これらの様々な税がどこで、何に使われているのか、国税庁のホームページを参考に調べてみると、学校の運営や教育費にも充てられている事が分かった。さらに、冒頭で綴った医療・消防の運営だけに留まらず、さらに国として大きな規模で見ると、国防への活動費用、自衛隊の装備の購入や維持など、私たちの未来に関わるどころにも、たくさんの税金が関わっている事が分かった。

このことをふまえ、もう一度冒頭の疑問について考えてみると、税金の可能性は思っていた以上に広く、無限大だと思った。それと同時に、自分の税の知識があまりなかったことを再確認した。税の在り方や意味の捉え方は、人によって違うだろう。しかし、知ろうとするか、しないかは、個人の選択なのである。一人でも多くの人々が税に関心を向け、税が私たちの生活において欠かせないという事、私達が受け持つその「負担」が、誰かの幸せ、自分の幸せにつながるという事を、もつと多くの人に知ってほしいと思う。